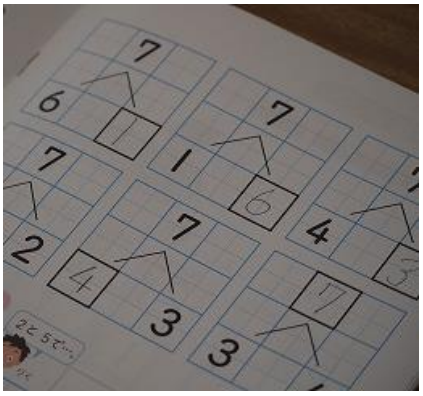
校長の目　～西小日々通信～

令和５年４月２８日（金）

１時間目は、全国学力学習状況調査の質問紙調査を６年生を対象に行いました。これは、子供たちの生活習慣や学習に取り組む姿勢などについて回答するもので、先日行った教科の調査結果と併せて、学力と生活習慣等との相関性を見ること等に活用されます。「朝ごはんを毎日食べる児童は、学力が高い傾向にある」などは、この調査分析から明らかになっているものです。

今回の質問紙調査は CBT 方式といって、タブレット PC で調査専用サイトにアクセスし回答しました。サイトにアクセスするためには、それなりの手順が必要ですが、子供たちは先生の支援を受けながら、無事に回答することができました。近い将来、教科の学力調査も CBT 方式で実施するようになります。情報端末を適切かつ円滑に使用できるリテラシーが一層求められるようになります。

４年生の国語は、漢字辞典の引き方の授業です。今日は、音訓索引、部首索引、総画索引という三種類の引き方を学びました。子供たちは、「見つからないよぉ。」と悪戦苦闘していましたが、根気強く辞典を引いていました。今の時代、大人であればインターネット上にある辞書サイトを使うことが多くなっていることと思います。「何も分厚い辞書を引く勉強なんてしなくても…。」という声が聞こえてきそうですが、紙ベースの辞書だからこその良さもあります。大人と違い、子供たちの語彙力は圧倒的に少ないです。紙の辞書であれば、目的の字を探す過程において、様々な字が目に飛び込んできます。「こんな字もあるのか。」とか「同じ読み方でも、意味の違う漢字がたくさんある。」など様々な副次的な発見や学びがあります。同じようなことは、漢字辞典以外にも、国語辞典や百科事典でも起こります。インターネット辞書は、調べたいことを瞬時に答えてくれて、時短という意味では効果的ですが、上記のような目的に附随した無意図的な気づきは生まれにくいものです。また、こういった気づきから、新たな興味関心、意欲が喚起されます。いわゆる、アナログの良さです。ペーパーレス化は、大人にとっては利便性が高くスマートなものですが、それが子供たちにとって当てはまるかどうかは、よく精査されるべきと考えます。



１年生の算数は、１から１０までの数を学習しましたので、いよいよ「いくつといくつ」に入りました。本時の学習課題は、「７は　いくつと　いくつかな」です。二つの数を組み合わせて７をつくる学習ですが、数の合成・分解について学びます。教科書には、通称「サクランボの図」といわれる図的な表現が出ています。サクランボの図を使って、７は、１と６であったり、３と４であったり、いろいろな見方があることを学びます。このことが、たし算・ひき算の基礎となります。